東日本大震災
久里浜医療支援
こころのケアチーム
第10班報告

平成23年5月16日～5月22日

松下幸生、越野仁美、桑田美子、今　大基

第10班の活動内容

- 宮崎県医療チームから継続相談ケースの引継ぎ
- 他の医療チームや保健師さん達との情報交換
- 避難所への訪問
- 自宅への訪問
- 健康教室の開催
- アルコール依存症の大船渡自助グループ活動支援
- 第11班へ引継ぎ

宮崎県医療チームから引継ぎ

宮崎県医療チームから
相談ケースの引継ぎを
行いました

毎夕の保健師さん達との
ミーティング

こころのケアチームの
ミーティング

大船渡の街の様子の変化

4月頃の様子と比べて

- 避難所から仮設住宅への移動が開始になった
- 閉鎖していた医院、病院、薬局の再開が増加
- 瓦礫の片づけや被害を受けた住宅の撤去が本格的に開始された
- コンビニ、スーパーマーケットなどの商業活動も復興が目立つ

大船渡市街地の変化（遠景）

平成23年3月29日撮影

平成23年5月19日撮影

写真ではよくわかりませんが、瓦礫の撤去作業は日々進んでいます

陸前高田の交通渋滞

気仙川にかかる橋が崩落して残った橋に車が集中するため毎朝交通渋滞がおこります

仮設住宅の様子

中学校の校庭を利用して仮設住宅が設置されています

訪問活動の様子

避難所での健康教室

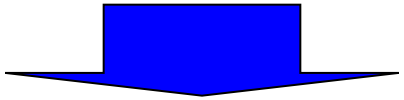
避難所の方々にお集まりいただいてアルコールによる健康への影響、うつ病やPTSDなどの災害に関連したこころの病気、うつ病やPTSDはアルコール問題を起こしやすいことなどについてお話ししました。

大船渡自助グループ

盛駅の近くにある社会福祉法人の支援センターを会場としたアルコール依存症の自助グループのミーティングに参加しました。始まって2年というまだ若いグループです。毎月2回のミーティングが行われています。

アルコール問題の顕在化

- 飲酒の問題が中心の相談ケースが5例（男性4例、女性1例）
  4例は避難所で生活、1例は自宅
- 認知症を合併した男性を除く男性3例はいずれも60歳代、単身生活で仕事がない、震災前からの多量飲酒であることが共通していた
- 朝から飲酒したり酔って対人関係上のトラブルなどが問題として相談されている



避難所から仮設住宅への移動で孤立しないよう配慮が必要

相談の内容

（平成23年5月16日～5月22日）

- 総件数（再訪、不在を含む）　20件
- 飲酒問題による相談　5件
- うつ病またはその疑い　5件
- 不眠、不安　4件
- 震災・津波の心的外傷　3件
- 家族関係の相談　2件
- 認知症　1件
- 統合失調症の疑い　1件
- 脳器質性疾患　1件

（件数は重複を含む）

全体の印象

- こころのケアの相談件数は全体的には減少傾向だが、問題はより専門的になっており、今後は複雑化、重症化することも予想され地域の医療への支援継続が必要
- 4月頃まではあまりみられなかったアルコール問題も今後の重要な問題となりつつある
- 仮設住宅への移動など生活の変化によって問題を抱えた人達が孤立することのないように行政・地域・医療の協力が必要